

F フォーラム

配偶者控除の存続

われら中小企業

菊地 智美さん(4)



内助の功報いい

Yes 配偶者控除を撤廃したら、すべての女性が喜んで働き出しますか？ そろは思えないんです。いま専業主婦で、優秀でバリバリ働ける方に、控除は邪魔でしょう。でも、そういう女性はばかりではありません。仕事をしなくて断られ、やっと見つけたパートの仕事で、月に103万円稼ぐ。これだって、たいへんなことなんです。なのに、ご主人が受けていた控除をなくして、増税するんですか？

女性の考え方も生き方も、いろいろです。子育てに時間を割きたいと思う方、自分の体力や健康、さらに親の介護などで、長い時間は働けない方もいます。そういう方たちを仕事に連れ戻しますか？

それぞれが生きることにかんばっ

ている。いまじゃないですか、税制で多少の配慮をしても、不公平があっても、「内助の功」に頼む制度は、あっていい。財源が厳しいのは知っています。だから、「女性活躍」といってもいい理由をつけて、取りやすさから控除を取るとしか思えません。

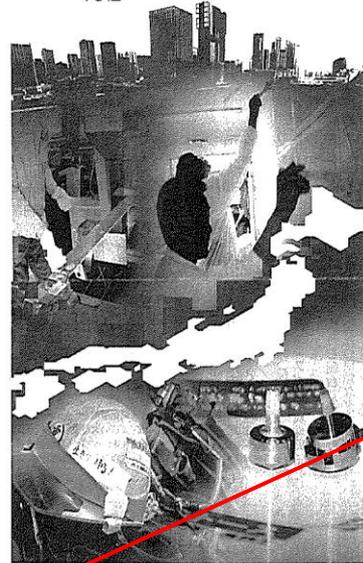
女性は結婚し、バリバリ仕事をして子どもも育てなくてはならない。そんな空気が強まっていると感じます。イヤですね。自由な生き方を必要とするためにも、控除は必要です。「女性が輝く社会」と言いますが、それは大企業の話、こちらは父が創業社長で、将来、私が二代目になります。中小企業には女社長も多く、女も男も輝いています。(本社・東京都墨田区 従業員11人)

Yes 従業員に安心してもらうには、税や社会保険、企業の制度で配偶者に配慮することが大切です。女性の再就職では正社員の採用が少なく、女性を雇う企業体質を一つしていない現状がまだある。配偶者控除をなくす意見には憤りを覚える。(40代・製造業)

Yes 主婦が働く多くの場合、「将来どうなりたい」というより、「今月の収入を地味にしたい」という切実な理由があると思う。配偶者控除で年収103万円を決めたところに比べて増給はすごい金額上がったのに、この額を上げていけないことが問題だ。(60代・製造業)

Yes 一般的な家庭の主婦は、配偶者控除の範囲内でパートとして短時間、働いている。当社も、そんな女性たちを雇っている。控除は主婦が働くきっかけになっている。控除がなくなれば負担が増えるので、仕事を辞めてしまう可能性がある。(60代・サービス業)

所得額の配偶者控除の見直しが、話題になっています。年収を103万円以下に抑えて控除を受けようとする中で、女性の働く意欲をそいでいるのでしょうか。専業主婦を促進しているのでしょうか。シリーズ「われら中小企業」で、いまのしくみを踏まえてどう思うかどうかを経営者50人に尋ねると、24人が「続けたいほうがよい」と答えました。女性の生き方と同じく、その理由もさまざまです。



確かに多様な生き方が尊重されるべきだと思います。一方で、配偶者控除の「103万円の壁」を意識すると、時給が高い人は働ける時間が減る、という指摘が複数ありました。優秀な人や専門技能を持つ人は短時間しか働けないなら、もったいないジレンマといえます。印象に残ったのはNoの浅井さんの言葉。ただでさえ支える人が少ない時代、余力があるのなら、「支えられる」のではなくて一緒に「支える」側に回ろう。嫌々拒絶でも地域社会でも大切にしたいと意図しました。(信川啓一郎)



浅井 満知子さん(50)

共働きは納税 不公平

No 社員は全員が女性です。今回、配偶者控除という制度をどう思うかを聞いてみると、みんな「納得できない」という意見でした。当社は社員に「働く意欲とは、やりがいや生活のためだけではなく、納税して社会の財源に貢献することでもあり」と伝えてきました。内助の功も配偶者控除もなくても、共働きなどで納税の責任を果たす人がいる一方で、働かなくても就業調整しても控除を受けられるのは不公平、と感じるの很正常だと思います。

経営者として困った経験もありました。以前、週2～3日の勤務だった女性が専業主婦で、働く日を増やしてほしいと頼まれました。でも、夫の配偶者控除の対応が外れそうなので、と断られました。

日本は少子高齢化で、労働力不足です。女性も高い教育を受けて、一生働くことが当たり前と考える時代になり、専業主婦世帯より共働き世帯の方が多くなっています。

そうした時代にそぐわない、昔ながらの内助の功に頼む税制を守るのには、いかなるものかと思えます。それよりも共働きの子育て支援を厚くし、将来に貢献した人が報われる社会にすることが必要でしょう。

もちろん介護や子育てなどの事情で働けない方もいます。低所得の世帯に控除が必要だと思います。でも高所得の世帯でも配偶者控除が必要でしょうか。人それぞれの生き方は被弾できませんが、他の控除者につけ回るのは公平とは思えません。(本社・東京都渋谷区 社員10人)

No 最低賃金には地域差があるのに、なぜ配偶者控除の基準は一律103万円なのか。パートの主婦も職業人としての能力が高い人はたくさんいる。有能な人の時給を上げると、103万円の壁がもっと大きく時間が増える。ほめてほしい。(40代・サービス業)

No 配偶者控除をなくし、女性のパート社員ももっと働いて、103万円を超える給料を正々堂々と取ればいい。その方が世帯収入は増える。けれど、女性が働きやすくなるというのは高所得者に増税のためなら、断固として反対です。(50代・製造業)

No 配偶者控除の対象となるように、10月以降の勤務時間を減らして年収を調整する従業員がいる。いまのしくみは、働くことへの妨げになっていると感じる。政府や企業は、女性ももっと長く働くことができる環境づくりに取り組むべきだ。(40代・製造業)

No 配偶者控除は不公平だ。同じ働き方をしているも、独身者など主婦でない人には適用されない。世帯主が一馬力で家族を養うのが当たり前だった時代にできた制度だが、現在は「二馬力」で家族を養う世帯が増えている。時代遅れだ。(60代・製造業)

A 配偶者控除をやめるべきだという意見の背景には、「より働きたいと生活が楽になる状態にいたい」というイメージがある。多くの人

2016年(平成28年)
10月17日
月曜日

天気	6	9	12	15	18	21(時)
東京	☁	☁	☁	☁	☁	70 19
横浜	☁	☁	☁	☁	☁	80 17
千葉	☁	☁	☁	☁	☁	70 18
さいたま	☁	☁	☁	☁	☁	70 20
札幌	☁	☁	☁	☁	☁	13 14
仙台	☁	☁	☁	☁	☁	13 14
名古屋	☁	☁	☁	☁	☁	22 18
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	20 20
福岡	☁	☁	☁	☁	☁	20 21

朝日新聞東京本社 本日の編集長一山之上玲子
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com

回答のあった48社【業種別】【北海道】 武部建設、岩見沢液化ガス【東北】 高田自動車学校、八木澤政舎、オクト、蔵ホテル一興、シェルター、八雲水産、東映、ヴィ・クルー、キクチ【関東】 中里スプリング製作所、日本プラスター、日本電機工業、永瀬留十郎工場、プレジール、日本建築工業、コピーアンドアソシエイツ、吉村、石坂産業、アイシービー、喜久屋、セリエコーポレーション、アトム精密、エイアンドビープル、ミナロ、アプロディティ、ウーメスデザイン、一友ビルドテック、ユウマペイント、サンワ、ジー・ブーン【中部】 船越、ネコリパブリック【近畿】 ロマンライフ、山田製作所、ササキ、新日本テック、進和建設工業、カリキタ、梅南鋼材、三徳製作所、成田建設、日本グリーンパックス【中国、九州】 エプリー、ヒューマンライフ、お掃除でつくるやさしい未来、ブレスホーム、ツシマ

2016年10月18日付
朝日新聞「われら中小企業」
中小企業経営者50人への
「配偶者控除のしくみはつづけたほうがよいですか？」
というテーマのアンケートに
当社の代表である後藤が
回答しました。

◆編集委員・中島隆と吉川が担当しました。次回の「われら中小企業」は、11月21日に掲載の予定です。ご意見はasahi_forum@asahi.comか、〒104-8011(所在地不変)朝日新聞オビニオ編集部「フォーラム面」へ。